

第 60 回 幹 事 会

平成 20 年 7 月 24 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 5 第59回議事要旨
- 資料 6 諸報告
- 資料 7 審議事項
- 資料 8 (提言) 「地域の知」の蓄積と活用に向けて
- 資料 9 (報告) 開発のための国際協力のあり方と地域研究の役割
- 資料 10 (報告) 電子社会における匿名性と可視性・追跡可能性—その対立とバランス—
- 資料 11 (提言) 日本語の将来に向けて 自己を発見し、他者を理解するための言葉
- 資料 12 (提言) 臨床医学会の社会的責任—腎・泌尿・生殖医療分野の立場から—
- 資料 13 (提言) IT・ロボット技術による持続可能な食料生産システムのあり方
- 資料 14 (提言) 食生活の教育
- 資料 15 (提言) 医療系薬学の学術と大学院教育のあり方について
- 資料 16 (提言) 鉱物資源の安定確保に関する課題と我が国が取り組むべき総合的対策
- 資料 17 (提言) 数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性—不確実性とリスクに挑む科学—
- 資料 18 (報告) 自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて
- 資料 19 (報告) 応用物理の将来ビジョン
- 資料 20 (報告) 老朽・遺棄化学兵器の廃棄における先端技術の活用とリスクの低減
- 資料 21 (提言) 我が国における放射性同位元素の安定供給体制について
- 資料 22 (提言) 学術分野における男女共同参画のために
- 参考 1 今後の予定

第60回幹事会議事次第

日時 平成20年7月24日(木) 14:00～
議題

I 非公開審議事項

1 委員会関係

- 提案1 日本の展望委員会における分科会の委員の決定
- 提案2 国際委員会運営要綱の一部改正
- 提案3 分野別委員会における分科会の委員の決定
- 提案4 課題別委員会における設置期間の延長等

2 その他

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 提言等

- 提案6 (提言) 「地域の知」の蓄積と活用に向けて
- 提案7 (報告) 開発のための国際協力のあり方と地域研究の役割
- 提案8 (報告) 電子社会における匿名性と可視性・追跡可能性—その対立とバランス—
- 提案9 (提言) 日本語の将来に向けて 自己を発見し、他者を理解するための言葉
- 提案10 (報告) 日本語の将来に向けて 自己を発見し、他者を理解するための言葉
- 提案11 (提言) 臨床医学会の社会的責任—腎・泌尿・生殖医療分野の立場から—
- 提案12 (提言) IT・ロボット技術による持続可能な食料生産システムのあり方
- 提案13 (提言) 食生活の教育
- 提案14 (提言) 医療系薬学の学術と大学院教育のあり方について
- 提案15 (提言) 鉱物資源の安定確保に関する課題と我が国が取り組むべき総合的対策
- 提案16 (提言) 数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性—不確実性とリスクに挑む科学—
- 提案17 (報告) 自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて
- 提案18 (報告) 応用物理の将来ビジョン
- 提案19 (報告) 老朽・遺棄化学兵器の廃棄における先端技術の活用とリスクの低減
- 提案20 (提言) 我が国における放射性同位元素の安定供給体制について
- 提案21 (提言) 学術分野における男女共同参画のために

2 団体の指定

- 提案22 日本学術会議協力学術研究団体の指定

3 国際会議関係

- 提案23 平成20年度代表派遣(平成20年9月分)
- 提案24 2nd Meeting of ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energyへの連携委員の派遣
- 提案25 日本学術会議—英国王立協会共同ワークショップの開催
- 提案26 平成20年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施計画案

4 シンポジウム等

- 提案27 心理学と社会科学—新しい関係に向けて—(シンポジウム)
- 提案28 巨大複雑系社会経済システムとその価値創成を考える(シンポジウム)
- 提案29 東アジアと拡大EUの比較研究(シンポジウム)
- 提案30 「最新の科学が明らかにする地球環境の過去と未来」(公開講演会)

5 後援

- 提案31 国内会議

IV その他

資料2

第60回幹事会（7月24日）出席者一覧

会長	金澤 一郎	
副会長	浅島 誠	(13:30~)
副会長	鈴村 興太郎	
副会長	土居 範久	(13:30~)

第一部	部長	広渡 清吾
	副部長	佐藤 学
	幹事	江原 由美子
	幹事	小林 良彰

第二部	部長	唐木 英明
	幹事	山本 雅
	幹事	鷺谷 いづみ

第三部	部長	海部 宣男
	副部長	小林 敏雄
	幹事	河野 長
	幹事	大垣 眞一郎

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- 1 審議付託等
- 2 賞等の推薦

P1
P1

第 2 各部・各委員会報告

- 1 部会の開催とその議題
- 2 機能別委員会の開催とその議題
- 3 分野別委員会の開催とその議題
- 4 課題別委員会の開催とその議題
- 5 記録
- 6 サイエンスカフェの開催
- 7 総合科学技術会議報告

P1
P1
P1
P2
P3
P3
P3

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 審議付託等

件 名	申請者	審議付託先
大阪大学サイバーメディアセンター運営委員会委員候補者推薦	大阪大学サイバーメディアセンター長	情報学委員会
第6回教育シンポジウム「理科好きな子どもを育てよう」	応用物理学会長	第三部

2 賞等の推薦

件 名	照会先	備考
朝日賞	各部	照会中

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

なし

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会連携会員候補者選考実務分科会人文・社会科学分野連携会員候補者選考実務小分科会（第2回）（7月14日）

①連携会員候補者の選考②その他

(2) 選考委員会連携会員候補者選考実務分科会生命科学分野連携会員候補者選考実務小分科会（第2回）（7月15日）

①連携会員候補者の選考②その他

(3) 選考委員会連携会員候補者選考実務分科会理学・工学分野連携会員候補者選考実務小分科会（第2回）（7月23日）

①連携会員候補者の選考②その他

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 経済学委員会 人口変動と経済分科会（第5回）（7月15日）

①シンポジウムについて ②報告書について ③その他

(2) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会（第5回）（7月15日）

①「法と心理学」領域における人材養成とカリキュラムについて

②分科会の今後の活動予定について ③その他

(3) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会（第10回）（7月18日）

①高校の国語教育の実情 群馬大学准教授 中村 敦雄 特別講師 ②その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会 (第11回) (7月15日)

①提言について ②その他

(2) 健康・生活科学委員会 (第10回) (7月17日)

①各分科会からの報告 ②第20期日本学術会議における健康・生活科学委員会活動のまとめと、第21期への引継ぎ事項 ③その他

(3) 薬学委員会 専門薬剤師分科会 (第4回) (7月18日)

①専門薬剤師分科会の提言(案)の検討 ③その他

(4) 生産農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会 (第7回) (7月23日)

①今後の活動について ②その他

(5) 臨床医学委員会 出生・発達分科会 (第5回) (7月23日)

①提言について ②その他

第三部担当

(1) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会 (第5回) (7月23日)

①話題提供

1) 吉川弘之委員

「エネルギーと技術」

2) 山地憲治委員

「地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会
中間報告」

②その他

(2) 物理学委員会 IAU 分科会 (第11回)、天文学・宇宙物理学分科会 (第10回) 合同分科会

①報告事項

②天文学・宇宙物理学長期計画の報告取りまとめについて

③その他

4 課題別委員会の開催とその議題

なし

5 記録

第三部関係

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付日			
SCJ第20期-200718-20540300-002				化学委員会 化学企画分科会	「日本の学術展望-化学からの提言」
SCJ第20期-200717-20541600-003				化学委員会 生体関連化学分科会	生体関連化学の現状と将来
SCJ第20期-200717-20541000-004				化学委員会 アジア化学イニシャティブ分科会	アジア・アフリカ科学技術新教育プログラム-グローバル複素大学教育モデルの提案-
SCJ第20期-200719-20541000-005				化学委員会 アジア化学イニシャティブ分科会	アジア化学イニシャティブに関する将来構想

6 サイエンスカフェの開催

(1) 7月18日(金) 18:30~20:30

場 所: サロンド富山房Folio

テーマ: 愛という名の記憶あるいは愛と共依存のはざま

講 師: 河野 喜代美 (元お茶の水女子大学教授 心理カウンセラー)

室伏 きみ子 (お茶の水女子大学教授 日本学術会議連携会員)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 7月17日 *会長出席
- ・ 7月24日 *会長出席

審 議 事 項

- 1 提言等
 - 提案6 (提言) 「地域の知」の蓄積と活用に向けて P1
 - 提案7 (報告) 開発のための国際協力のあり方と地域研究の役割 P2
 - 提案8 (報告) 電子社会における匿名性と可視性・追跡可能性—その対立とバランス— P3
 - 提案9 (報告) 日本語の将来に向けて 自己を発見し、他者を理解するための言葉 P4
 - 提案10 (提言) 臨床医学会の社会的責任—腎・泌尿・生殖医療分野の立場から— P5
 - 提案11 (提言) IT・ロボット技術による持続可能な食料生産システムのあり方 P6
 - 提案12 (提言) 食生活の教育 P7
 - 提案13 (提言) 医療系薬学の学術と大学院教育のあり方について P8
 - 提案14 (提言) 鉱物資源の安定確保に関する課題と我が国が取り組むべき総合的対策 P9
 - 提案15 (提言) 数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性—不確実性とリスクに挑む科学— P10
 - 提案16 (報告) 自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて P11
 - 提案17 (報告) 応用物理の将来ビジョン P12
 - 提案18 (報告) 老朽・遺棄化学兵器の廃棄における先端技術の活用とリスクの低減 P13
 - 提案19 (提言) 我が国における放射性同位元素の安定供給体制について P14
 - 提案20 (提言) 学術分野における男女共同参画のために P15
- 2 団体の指定
 - 提案21 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P16
- 3 国際会議関係
 - 提案22 平成20年度代表派遣 (平成20年9月分) P17
 - 提案23 2nd Meeting of ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energyへの連携会員の派遣 P19
 - 提案24 日本学術会議—英国王立協会共同ワークショップの開催 P23
 - 提案25 平成20年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施計画案 P26
- 4 シンポジウム等
 - 提案26 心理学と社会科学—新しい関係に向けて— (シンポジウム) P28
 - 提案27 巨大複雑系社会経済システムとその価値創成を考える (シンポジウム) P29
 - 提案28 東アジアと拡大EUの比較研究 (シンポジウム) P31
 - 提案29 「最新の科学が明らかにする地球環境の過去と未来」公開講演会 P33
- 5 後援
 - 提案30 国内会議 P35

6	
幹事会	60

提 案

提 言

「「地域の知」の蓄積と活用に向けて」

1. 提案者 地域研究委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 地域研究委員会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

7	
幹事会	60

提 案

報 告

「開発のための国際協力のあり方と地域研究の役割」

1. 提案者 地域研究委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 地域研究委員会国際地域開発研究分科会における報告を別添
のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

8	
幹事会	60

提 案

報 告

「電子社会における匿名性と可視性・追跡可能性 ―その対立とバランス―」

1. 提案者 法学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 法学委員会「IT 社会と法」分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の
「報告」として取り扱うこと

9	
幹事会	60

提 案

提 言

「日本語の将来に向けて 自己を発見し、他者を理解するための言葉」

1. 提案者 言語・文学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 言語・文学委員会の提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

10	
幹事会	60

提 案

提 言

臨床医学会の社会的責任

－腎・泌尿・生殖医療分野の立場から－

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

11	
幹事会	60

提 案

提言

「IT・ロボット技術による持続可能な食料生産システムのあり方」

1. 提 案 者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 農業情報システム学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

1 2	
幹事会	6 0

提 案

提 言

食生活の教育

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 健康・生活科学委員会生活科学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

13	
幹事会	60

提 案

提 言

医療系薬学の学術と大学院教育のあり方について

1. 提案者 薬学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 薬学委員会医療系薬学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

14	
幹事会	60

提 案

提 言

「鉱物資源の安定確保に関する課題とわが国が取り組むべき総合的対策」

1. 提案者 総合工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 総合工学委員会持続可能なグローバル資源利活用に係る検討分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「提言」として取り扱うこと

15	
幹事会	60

提 案

提 言

「数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割と
その推進の必要性－不確実性とリスクに挑む科学－」

1. 提案者 数理科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 数理科学委員会数理統計学分科会における提言を別添のとおり
取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「提言」として取り扱うこと

16	
幹事会	60

提 案

報 告

「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて」

1. 提案者 土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 土木工学・建築学委員会国土と環境分科会における報告を別添
のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

17	
幹事会	60

提 案

報 告

「応用物理の将来ビジョン」

1. 提案者 総合工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 総合工学委員会未来社会と応用物理分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の
「報告」として取り扱うこと

18	
幹事会	60

提 案

報 告

「老朽・遺棄化学兵器の廃棄における先端技術の活用とリスクの低減」

1. 提案者 総合工学委員長、機械工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

19	
幹事会	60

提 案

提 言

「我が国における放射性同位元素の安定供給体制について」

1. 提案者 基礎医学委員長、総合工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 基礎医学委員会・総合工学委員会放射線・放射能の利用に伴う
課題検討分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、
これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

20	
幹事会	60

提 案

提 言

「学術分野における男女共同参画のために」

1. 提案者 科学者委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 科学者委員会男女共同参画分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

21	
幹事会	60

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

○ 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本臨床心理身体運動学会
- ・ 日本英語文化学会
- ・ ディスクロージャー研究学会
- ・ 異文化経営学会
- ・ 日本健康教育学会

22	
幹事会	60

提 案

平成20年度代表派遣について（平成20年9月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (氏名)	備考
		計				
1	国際問題に関するインターアカデミー・パナール(IAPI)執行委員会	9月7日 ～ 9月11日	5日	オタワ カナダ	土居 龍久 中央大学理工学部教授 会員	ICSU等分科会 第2区分
2	国際問題に関するインターアカデミー・パナール(IAPI)執行委員会	9月7日 ～ 9月11日	5日	オタワ カナダ	武市 正人 東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長 会員	ICSU等分科会 特別派遣

別紙

2 3	
幹事会	6 0

提 案

2nd Meeting of ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energy への連携会員の派遣について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 2nd Meeting of ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energy に下記のとおり連携会員を派遣することとしたい。
- 4 派 遣 者 吉野 博

※なお、会議出席に係る費用については、ICSU ROAP から支給される。



ICSU

International Council for Science
Regional Office for Asia and the Pacific

Department of Architecture and Building Science,
Graduate School of Engineering,
Tohoku University
Sendai 980-8579, Japan

Ref: ICSU/SE SPG/0708-1

1 July 2008

Dear Professor Hiroshi Yoshino,

Invitation to be a Member of the ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energy

On behalf of the ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific, I am happy to hereby invite you to be a member of the ICSU ROAP Science Planning Group on Sustainable Energy. The availability of sustainable energy as you know is a key concern in the Asia and the Pacific region with its high population and increasingly rapid development. Sustainable energy has been selected to be one of the three priority topics of work of ICSU ROAP in the next 3 to 6 years.

For your information the Group is chaired **in the interim** by one of the ICSU ROAP Regional Committee member, Professor Derek J. Gardiner of the University of the South Pacific, Suva, Fiji. At the 1st meeting of the group held in Kuala Lumpur on April 2008, it was decided that the plan will focus on 7 energy sources viz. wind, solar, geothermal, hydro, biomass, energy from waste and ocean energy. Each energy source will be examined in terms of the following criteria:

- (i) regional availability and current status;
- (ii) current technology;
- (iii) emerging technology; and
- (iv) potential regional applications

A draft generic terms of reference (ToR) for the science planning group have been prepared and is attached for your reference. The ToR is aimed at clarifying the main tasks the group will undertake (Annex 1).

A second meeting of the Planning Group will be held on 12 and 13 August 2008 at the ICSU ROAP office in Kuala Lumpur. It is expected that all members of the group will be actively involved in drafting the planning documentation. All expenses for attending the meeting will be borne by ROAP. This includes economy class air travel by the most direct and cheapest route from your home base, per diems and incidental expenses while you are in Kuala Lumpur. You will be expected to arrive on 11 August at the latest and depart on 14 August at the earliest.

I am very hopeful you will accept this invitation to be a member of the Science Planning Group on sustainable energy of ICSU ROAP. If you have any questions or need further information related to this appointment and the proposed meeting, please do not hesitate to contact me or Ms Zaneeda Norman, Science Officer (Programme) at +603-26949898 or email zaneeda.norman@icsu-asia-pacific.com

I look forward to working with you on this important activity.

Yours sincerely,



Emeritus Professor Mohd. Nordin Hasan FASc
Director
Regional Office for Asia and the Pacific
International Council for Science
Tel: +603-2694-9898
Fax: +603-2691-7961
Mobile: +6012-314-3125

c.c. Professor D. Gardiner.

Terms of References Science Planning Group on Sustainable Energy

Goal: To provide a science plan that the ICSU Regional Office for Asia and the Pacific can use to enhance promote research on the science and application of sustainable energy in Asia and the Pacific.

The Terms of Reference for the Science Planning Group on Sustainable Energy are as follows:

1. To review the current status of research, training and education needs in sustainable energy in Asia and the Pacific.
2. To assess the interests of the ICSU Scientific Unions, Interdisciplinary Bodies and Joint Initiatives in the science of sustainable energy.
3. To formulate a set of immediate, medium- and long-term objectives for work on the science of sustainable energy and contribute towards the objectives of the ICSU Strategic Plan of 2006-11 taking note of prior and ongoing initiatives by ICSU internationally.
4. To suggest major areas of research and development to achieve the goals of enhancing the role of the science of sustainable energy in sustainable development of societies in Asia and the Pacific.
5. To examine capacity building, training and education needs that would enable broad dissemination and application of the results of research on the science of sustainable energy in Asia and the Pacific.
6. To identify the opportunities in sustainable energy options resulting from research in priority themes.
7. Submit an outline Draft Science Plan in sustainable energy to the ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific by July 2008.

24	
幹事会	60

提 案

日本学術会議－英国王立協会共同ワークショップ
「New and Emerging Technologies workshop
－ Challenges and Social Innovation - (仮題)」の開催について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催 日本学術会議 (Science Council of Japan)
英国王立協会 (Royal Society)
- 2 開催日時 平成 20 年 (2008 年) 9 月 22 日 (月) ～ 9 月 23 日 (火) (2 日間)
- 3 開催場所 英国王立協会内 (予定)
- 4 使用言語 英語
- 5 開催趣旨 本年は、日英修好通商 150 周年に当たることから、最新技術がもたらす社会的イノベーションをテーマとして、これまで 2 回にわたって開催されたナノテクを主テーマとするワークショップに続き、第 3 回目の共同ワークショップを本年 9 月にロンドンの英国王立協会で開催することとした。

6 次 第

9 月 22 日 (月)

14:00 Registration

14:30 Welcoming Remarks

15:00 Session 1

Overview of Science and Technology Policy and Strategy

16:30 Session 2
Health, Environmental and Societal impacts of
Nanotechnologies: Lessons from the first two SCJ-RS
workshops

17:30 Close

9月23日(火)

09:30 Registration

10:00 Session 3
Challenges and innovations resulting from new and emerging
Technologies
(11:30-12:00 Break)

13:00 Lunch

14:30 Session 4
Round table discussion on the framework for the governance of
emerging technologies

16:00 Break

16:30 Summary & Closing remarks

17:00 Close

6 主な出席者 (日本人参加者は全員日英学術交流分科会委員である。)

柘植 綾夫	第三部会員、芝浦工業大学学長
岸 輝雄	第三部会員、(独)物質・材料研究機構理事長
鈴木達治郎	特任連携会員、(財)電力中央研究所 社会経済研究所 研究参事、東京大学公共政策大学院客員教授(兼務)
竹村 誠洋	特任連携会員、(独)物質・材料研究機構国際室長
金出 武雄	連携会員、カーネギーメロン大学ロボティクス研究所 U. A. and Helen Whitaker 記念全学教授
唐木 英明	第二部長、東京大学名誉教授
城山 英明	特任連携会員、東京大学法学部教授
土居 範久	副会長、第三部会員、中央大学理工学部教授
村井 純	第三部会員、慶応義塾常任理事
Mark Welland	Fellow of the Royal Society, Professor, Head of the Nanoscience Centre at University of Cambridge, Chief Scientific Advisor to the UK's Ministry of Defense
Tony Whitehead	Director of Science in Government, Government Office for Science (予定)
Judy Britton	Director of Science in Government, Government Office for Science (予定)
Sandy Thomas	Director of Foresight, Office of Science and Innovation

Richard Jones	Fellow of the Royal Society, Professor, Department of Physics and Astronomy, University of Sheffield, Senior Strategic Advisor for Nanotechnology, Engineering and Physical Sciences Research Council (予定)
Harry Woodroof	Wider Implications of Science and Technology Project Leader, Horizon Scanning Centre
John McCarthy	Director Manchester Interdisciplinary Biocentre/Chair RSC Chemical Biology Interface Forum UK (予定)
Mike Brady	Fellow of the Royal Society, BP Professor, Information Engineering, Department of Engineering Science, University of Oxford, Fellow of Keble College in the University of Oxford
Lionel Tarassenko	Professor, Department of Engineering Science, University of Oxford

25	
幹事会	60

提 案

平成20年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱案について

1. 提 案 者 国際委員会委員長
2. 議 案 標記について、別紙案のとおり承認すること。
3. 提案理由 日本学術会議会則第3条第1項第3号の国際活動として平成20年度日本・カナダ女性研究者交流事業を行うこととし、実施要綱を別紙案のとおり策定いたしたい。

《参考》日本学術会議会則（抜粋）

（国際活動）

第三条 法第三条第二号の職務として、法第六条の二に定める国際団体への加入のほか、次に掲げる国際活動を行うことができる。

- 一 学術に関する国際会議等への代表の派遣
- 二 学術に関する国際会議の主催及び後援
- 三 二国間学術交流
- 四 アジア学術会議に関すること
- 五 その他会長が必要と認めるもの

平成20年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

1. 目的

本事業は、日本・カナダ両国の優れた若手の女性研究者の相互訪問を通じて、幅広く科学技術・学術分野における女性の活躍を促進することを目的とする。

2. 事業の内容

- (1) 当該女性研究者は相手国の大学や研究機関等を訪問し、専門分野における最近の研究動向等について情報交換する。
- (2) 初等中等教育段階の学校（小学校、中学校、高校）を訪問し、自らの研究活動や研究者としての経験について紹介しつつ、生徒との交流を行う。
- (3) 帰国後報告会を設け、両国の研究環境や教育環境の違い、双方の優れた点や検討すべき点等について、直に触れることにより得た知見を報告する。

3. 実施計画

20年度は、カナダ側からの派遣の受け入れ及び日本からカナダへの女性研究者の派遣を行う。滞在期間はいずれも1週間から10日間程度を目安とする。

カナダ側から派遣受け入れ（1名） 20年11月頃

日本からカナダへの派遣（2名） 20年10月～21年3月頃

※人数及び時期はいずれも予定

4. 実施体制

(1) 実施体制

日本とカナダが共同で実施。

日本側：日本学術会議

カナダ側：在日カナダ大使館、カナダ王立協会、カナダ保健研究機構、カナダ自然科学・工学研究審議会

(2) 事務分担

①カナダ側からの派遣者	旅費	カナダ側が負担
	滞在費	日本学術会議が負担
	受入事務	日本学術会議
②日本からカナダへの派遣	旅費	日本学術会議が負担
	滞在費	カナダ側が負担
	受入事務	カナダ王立協会

5. 派遣者の選定

ホームページ上で公募を行う。国際委員会日本・カナダ女性研究者交流分科会による審査の上、2名の派遣者を選定。（募集要項等の詳細については、分科会にて定める）

6. その他

日本学術会議における本事業の庶務は、日本学術会議事務局各課・参事官の協力を得て、参事官（国際業務担当）において処理する。

26	
幹事会	60

提 案

公開シンポジウム「心理学と社会科学 ―新しい関係に向けて―」の開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 心理学・教育学委員会「心理学と社会科学」分科会
特定領域研究「実験社会科学：実験が切り開く21世紀の社会科学」
2. 日 時 平成20年9月6日（土）13:00～15:00
3. 場 所 お茶の水女子大学共通講義棟1号館の304室
(〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1)
4. 分科会の開催 同日に開催予定
5. 次 第

開催趣旨

21世紀は社会科学の新たな発展が期待されるが、そのためには心理学をはじめとする人間科学の視点から社会科学を再構築するための視点が必要とされている。本シンポジウムは、心理学者と社会科学者の間で人間の総合理解に向けた相補的關係の構築に向けた議論を進め、心理学と社会科学との間の有効な協力関係の方向についての議論を目的としている。

開会あいさつ：坂元章（お茶の水女子大学教授、日本学術会議連携会員）

I 講 演（13:10～14:40）

- 1) 西條辰義（大阪大学教授、日本学術会議連携会員）
- 2) 清水和巳（早稲田大学教授）
- 3) 山岸俊男（北海道大学教授、日本学術会議会員）

II 討論など（14:40～15:00）

閉会あいさつ：西條辰義（大阪大学教授、日本学術会議連携会員）

参加申込方法

事前申込みは必要ありません。

27	
幹事会	60

シンポジウム「巨大複雑系社会経済システムとその価値創成~~力~~を考える」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 総合工学委員会
巨大複雑系社会経済システムの創成力について関する分科会
2. 後 援 日本機械学会、日本原子力学会、(依頼中) 日本航空宇宙学会、
日本船舶海洋工学会、精密工学会、日本経済団体連合会
3. 日 時 平成20年9月16日(火) 13:00～17:30
4. 場 所 日本学術会議大講堂(港区六本木7-22-34)
5. 次 第

開催趣旨

科学技術の成果が社会に浸透し、相互の連関構造がますます複雑化、巨大化する21世紀において、工学は「ターゲットの拡散」、「スコープの拡散」および「ディシプリンの拡散」という3つの拡散現象の潮流に直面している。一方、我が国は、これまで自動車、電気・機械などの工業製品に代表されるように人工物の創成に関して高品質、高信頼性などの視点から世界的な優位性を保ってきた。しかし、現在急速に進みつつある人口減少、環境問題の広がり、国際産業競争力の低下という状況の中で、人工物創成力に関する我が国の優位性を維持、発展させるために、21世紀の社会と世界の求める高付加価値人工物の創成力を分析し、その一層の強化を図ることが求められている。

人工物ネットワーク、原子力システム、宇宙システムなどは、これまで個別独立した人工システムとして理解され、それぞれの構想、設計、製作、運用・管理問題が扱われてきた。また、これらのシステムが生み出す課題の解決にあたっても、それぞれ個別独立に解決方法が模索されてきた。

しかし、これらの人工システムは、空間的ないし物理的ないしは、社会的広がり巨大であり、その中に内包される多数の要素の相互関係が複雑であり、かつ社会や経済に多大な影響を与える。このようなシステムを巨大複雑系社会経済システムと定義する。ここに、社会経済システムとよぶ理由は、このようなシステムは、経済的活動を通じた社会システムとして我々に作用するからである。

国を挙げた科学技術創造活動の成果を、真の社会経済価値の創造に結実させるためには、巨大複雑系社会経済システムの創成力の強化を図ることが求められる。

本シンポジウムにおいては、巨大複雑系社会経済システムの創成力強化のための制度設計と、それを担う人材育成について議論を行い、大学、産業、行政等のそれぞれのミッションと行動の方向について共有化を試みる。

シンポジウム「巨大複雑系社会経済システムと、その価値創成を考える」 プログラム

平成20年9月16日（火）日本学術会議講堂

13:00-13:10 開会挨拶：大和裕幸（東京大学大学院新領域創成科学研究科副研究科長・教授、日本学術会議連携会員）

第I部 講演（13:10～15:45）司会：大和裕幸

13:10-13:30 科学技術的知の創造と社会経済的価値創造との結合能力の課題

柘植綾夫（芝浦工業大学学長、日本学術会議会員）

13:30-14:30 巨大複雑系社会経済システム事例

原子力システムの特徴と課題 関村直人（東京大学大学院工学系研究科教授）

宇宙システムの特徴と課題 藤井孝蔵（（独）宇宙航空研究開発機構情報・計算工学センター長・教授）

人工物ネットワークの特徴と課題 新井民夫（東京大学大学院工学系研究科教授）

14:30-15:00 巨大複雑系社会経済システムとクラス分類（仮題）

上田完次（東京大学人工物工学研究センター教授、日本学術会議連携会員）

15:00-15:30 提言：巨大複雑系社会経済システムの創成力強化に向けて

吉村忍（東京大学大学院工学系研究科教授、日本学術会議連携会員）

休憩 20分

第II部 パネルディスカッション（15:50-17:20）

「創成力強化に向けたシステム改革・制度設計と人材育成」

モデレーター：柘植綾夫（分科会委員長）

パネラー：人選中 産業界

科学技術行政

人文社会科学分野

分科会委員幹事団：大和裕幸、上田完次、吉村忍

17:20-17:30 閉会挨拶：後藤俊夫（中部大学学監、日本学術会議総合工学委員会委員長）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

芝浦工業大学 学長室 担当：鈴木和子 電話：03-5859-7310

E-mail: suzukik@ow.shibaura-it.ac.jp Fax: 03-5859-7311

*定員250名となり次第、締め切りとさせていただきます。

28	
幹事会	60

提 案

公開シンポジウム「東アジアと拡大EUの比較研究」の開催について

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 政治学委員会 民主主義と信頼分科会、政治理論分科会、政治思想分科会、比較政治分科会、政治史分科会、行政学・地方自治分科会、国際政治分科会、政治過程分科会、日本政治学会年次大会地域統合分科会
- 2 日 時 平成20年10月11日(土) 10:00～17:30
- 3 会 場 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
(〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)
- 4 プログラム
(開催趣旨)

司会：猪口孝（中央大学教授・日本学術会議会員）

(報 告)

総括報告 地域統合 理論化と問題点

山本吉宣（青山学院大学・日本学術会議連携会員）

アジア 東アジアの地域統合の現段階－欧州との比較

山影 進（東京大学）

拡大EU 拡大EUと東アジア共同体 －比較政治の観点から－

羽場久美子（青山学院大学・日本学術会議連携会員）

社会政策 少子高齢化のアジアとEU比較

猪口邦子（衆議院議員・日本学術会議会員）

(討 論)

アジアとヨーロッパの比較 舒 旻 (早稲田大学)

ユーラシアとしてのロシアの位置

袴田茂樹 (青山学院大学・日本学術会議連携会員)

アジア、ヨーロッパに対するアメリカの役割 (案)

五十嵐 武 (東京大学・日本学術会議連携会員)

(閉会挨拶) 猪口 孝 (中央大学教授・日本学術会議会員)

【参加申込方法・お問い合わせ先】

事前申し込みは必要ありません。

青山学院大学国際政治経済学部 羽場久美子

Fax: 3409-8549 e-mail; kumihaba@ybb.ne.jp

29	
幹事会	60

提 案

日本学術会議主催公開講演会「最新の科学が明らかにする地球環境
の過去と未来」の開催について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議、国際惑星地球年日本 (IYPE 日本)
- 2 後 援、協 力 (予定)
後援：日本ユネスコ国内委員会、東京新聞社
協力：日本科学未来館、(独)産業技術総合研究所、(独)海洋研究開発機構、国立極地研究所、東京大学地震研究所
- 3 日 時 平成 20 年 11 月 2 日 (日)
- 4 会 場 日本科学未来館みらい CAN ホール
- 5 趣 旨

国際惑星地球年 (IYPE) とは、地球の科学のおもしろさと大切さを世界中の人々に知ってもらい、その持つ知識と情報を積極的に利用してもらうために、ユネスコと国際地質科学連合 (IUGS) が中心となって取り組んでいる国際的プログラムです。IYPE では「社会のための地球科学」とのスローガンを掲げ、社会と密接に関連する 10 のテーマを設けサイエンスプログラムおよびアウトリーチプログラムを実施しています。

本講演会は、これらのテーマのうち「海洋」「災害」「気候」の分野で第一線で活躍する地球科学者に、最新の研究成果とその社会への貢献について紹介していただき、参加者に、日々の生活と地球科学が密接に関連していること、そして将来にわたり安全で豊かな社会を築くためには地球科学の知識と技術が欠かせないことを知ってもらうことを目的としています。

本講演会は、小学校高学年以上の青少年を含む広く一般市民を対象とし、講演は努めて平易なものとしします。また、講演会では、綿密な進行のもと、会場の参加者から広く質問を受け、第一線で活躍する講演者と参加者とが交流する機会が持てるよう努めます。

なお、本講演会は、I*Y 国際シンポジウム「IGY から 50 年ー最新情報技術と地球・太陽科学ー」（2008/11/10-13；つくば；主催：日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会，日本学術会議 IPY・eGY・IYPE・STPP (IHY)・WDC・CODATA 各小委員会）の開催に先立つ一般向け講演会として位置づけられます。

6 次 第（予定）

「海の底から地球をさぐる（仮題）」

平 朝彦（日本学術会議第三部会員；独立行政法人 海洋開発研究機構 理事）

「津波シミュレーションから災害を予測する（仮題）」

佐竹 健治（日本学術会議連携会員；東京大学地震研究所 教授）

「南極と北極の氷から地球環境の過去と未来をさぐる（仮題）」

東 久美子（国立極地研究所 准教授）

寸劇「稲むらの火」

会場とのディスカッション（講演者および進行役）

以上

30	
幹事会	60

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議
付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付 託 先
平成 20 年度工学教育連合講演会 ① 主催：日本工学教育協会 ② 期間：平成 20 年 9 月 5 日（金） ③ 日本建築学会建築会館	日本工学教育 協会长	第三部
日本トレーニング科学会設立 20 周年記念シンポジウム ① 主催：日本トレーニング科学会 ② 期間：平成 20 年 9 月 12 日（金） ③ 早稲田大学	日本トレーニ ン科学会長	第二部